

子どものグリーフケアに携わるファシリテーターの活動とその思い

第1報

○荃津 智子¹⁾ 守口 絵里¹⁾ 工藤 悦子²⁾ 三宅 靖子³⁾ 長谷川 由香⁴⁾

1) 京都光華女子大学健康科学部看護学科 2) 日本医療大学保健医療学部看護学科 3) 姫路獨協大学看護学部看護学科 4) 佛教大学保健医療技術学部看護学科

目的

子どもを対象としたグリーフケアの必要性が認識され、それらの活動を行う団体も増えている。その内容や携わっている方たちの思いやその内容などの報告は十分にされていない。そこで、子どもを対象としたグリーフケア活動に携わっているファシリテーター、運営責任者を対象に活動の実態、課題を明らかにすることを目的に調査を実施した。

方法

調査は、無記名自記式質問紙調査（第1段階）、その後協力の得られた方を対象とした面接調査（第2段階）を行った。今回は質問紙調査結果を第1報、第2報として報告する。質問紙調査の分析は、統計的単純集計および自由記述部分はフリーソフトウェアKH Coder3を用いて分析を行った。第1報では単純集計結果について述べる。調査期間：2022年10月～2023年3月。本研究は、京都光華女子大学研究倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号134）。

結果

【対象者の属性】

- 回答数43件：運営責任者2名、ファシリテーター（ボランティア）39名、その他2名（病院内等相談業務も兼任）
- 回答者の年代：20代-70代であり、50代（25.6%）、60代（23.3%）が多かった。
- 子どものグリーフケアに携わっての経験年数：4年未満39.5%、4-7年未満18.6%、7-10年未満23.3%、10年以上18.6%であった。

【活動の状況】

- 活動頻度は、変則的に活動している69.8%、月1-2回程度23.3%であり、活動の状況は、1回に半日程度の活動62.3%、1日または複数日が34.9%であった。

【活動のきっかけ】

- 「チラシ・新聞等を見て」「身近な人を亡くした経験」がいずれも25.6%、「その他」として「災害後に自分ができることを探した」「大学でのグリーフケアの講義を聞いて興味を持った」など20.9%、「子どものグリーフケアに関心」16.3%であった。

【活動前の研修】

- 活動前の研修（活動団体やその他の団体）には95%が参加し、主な内容は「喪失・悲嘆」83.7%、「グリーフケア」86.0%、「ファシリテーターの心構え」95.3%、「ファシリテーターのセルフケア」74.4%であった。一方、「子どもの認知発達に関すること」44.2%、「子どもの死の理解」69.8%と、これらは他の項目に比して少なかった（複数回答）。研修は講義形式、ワークショップ、グループワークを取り入れたものであり、研修は1-2日の実施が76.7%であった。研修への満足度は90.7%であった。

【活動の中でファシリテーターとして心がけていること（表1）】では、「子どものしたいこと、思いを大事にする」「子どもが安心して過ごせる場とする」が80%以上であった。【子どもにとってどのような場と感じているか】（表2）では、「子どもが安心して過ごせる場」74.4%「安心して感情を表出できる場」69.8%であった。【子どもとのかかわりでの難しさ困っていること】（表3）では、「子どもの反応の意味すること」「年齢によっての子どもへの説明、言葉かけ」はいずれも46.5%と他の項目に比し回答が多かった。いずれも複数回答の質問である。

表1 ファシリテーターとして心がけていること

子どもが安心して過ごせる場となる	86.0%
子どもの思い、したいこと大事にする	83.7%
子どもが自分感情を表出しやすい関わり	53.5%
子どもの話を時間をかけて聴く	41.9%
子ども同士がお互いの気持ちを共有できる	7.0%

表2 子どもにとってどのような場と感じているか

子どもが安心して過ごせる場	74.4%
子どもが安心して感情を表出できる場	69.8%
子ども同士が経験、思いを共有できる場	32.6%
子どもにとって癒しの場	32.6%
子どもが自由に過ごせる場	23.3%
子どもが言いたいことが言える場	23.3%
子どもが悲しみや感情を整理する場	16.3%
子どもが自分の体験を考えたりできる場	14.0%

表3 子どもとの関わりの難しさ・困っていること

子どもの反応の意味すること	46.5%
年齢による子どもへの説明や言葉かけ	46.5%
子どもの質問に対する対応、答え方	39.5%
子どもとの関わり方全般	27.9%
年齢による子どもの理解度	27.9%
子どもと死別や死の話をする	25.6%
特に困っていることはない	11.6%

考察

子どものグリーフケアに関わっている方は、始めたきっかけは様々でも、その活動の場が子どもにとって「安心」と感じることを最も大事していることが明らかになった。一方で子どもとの関わりでは、子どもの反応やその対応、反応の意味などについては難しさを感じていた。研修内容の中で他の項目と比較し子どもの発達段階による認知、子どもの死の理解などについては印象に残っていないのか、そのような内容が行われていたという回答は少なかった。事前研修や活動開始後でも子どもの発達と認知や反応に関する事柄などについて事例などを通して共に考える機会を持つことが重要と示唆された。 ※COI開示事項なし